

令和5年7月27日

## 香川大学における生成 AI の使用に関する指針

香川大学長

近年、人工知能（AI）技術が急速に発展し、社会活動の様々な場面において活用の可能性が示されています。同時に多くの課題も指摘されているものの、今後 AI は社会に一層浸透し、特に生成 AI は誰もが手軽に活用する環境が整っていくと予想されています。

香川大学は、世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献することを理念としています。

人と生成 AI が共生する社会の到来に向けて、香川大学は、生成 AI の課題に留意しつつ適切に使用して教育研究及び運営を行うことによって、構成員の創造性や人間性を伸長し、地域社会に貢献していきます。

本指針は、そのための基本的な考え方を示すものであり、社会状況の変化等を踏まえて、必要に応じて見直しを行います。

### 1. 教育における使用

教育における生成 AI の使用については、教育効果や成績評価の観点から懸念が示されていますが、一律に使用を禁止することはせず、教育的な観点及び倫理的な観点から、必要な対応を行います。

- ① 生成 AI 使用により機密情報（未発表の論文、個人情報等）が流出・漏洩する可能性があることについて、注意します。
- ② 各教員から、担当授業における生成 AI の使用（禁止・限定を含む）について、必要に応じて学生に周知します。
- ③ レポート等の出題にあたっては、生成 AI を使用することで容易に達成可能な課題を設定せず、十分な教育効果を上げるための課題内容の工夫、適切な成績評価のための出題方法の工夫を行います。

### 2. 研究における使用

研究における生成 AI の使用については、適切なものとなるよう、以下の点に留意します。

- ① 公正研究の観点からは、AI 生成物が「捏造」、「盗用」、「改ざん」などの不正行為に

つながることのないよう、慎重に対応します。

- ② 研究論文等の投稿においては、当該の学術誌の編集方針や規程を確認し、AI生成物の取扱いが定められている場合には、これを遵守します。
- ③ 知的財産権保護の観点からは、生成 AI による著作物や作品がこれを侵害しないよう十分に配慮します。
- ④ 生成 AI の使用において、機密情報（研究上の機密や個人情報が含まれるもの）が流出・漏洩することのないよう、注意します。

### 3. 業務運営における使用

業務運営における生成 AI の使用については、業務の改善・効率化など利便性の向上に寄与するものと考え、以下の点に留意して適切使用します。

- ① 生成 AI 使用により機密情報（業務上知り得た秘匿性が高い情報、プライバシー情報や個人情報等）が流出・漏洩する可能性があることについて、注意します。
- ② 生成 AI から出力される回答を利用する場合、誤った情報が回答されることもあることを理解し、正確な情報と照合するようにします。